

いきいき健康生活

鴻巣市広報「かがやき」 平成21年7月15日号 掲載

こどもの夏風邪

風邪といっても、冬と夏では症状がかなり違います。夏の風邪は熱の他にのどの痛みや下痢、おう吐、発疹などがよくみられます。

今回は、代表的な夏風邪のプール熱（咽頭結膜熱）、ヘルパンギーナ、手足口病についてお話しします。

まずプール熱は39度前後の高熱が出て、のどの痛みが強く、目が真っ赤になり、目やにが出ます。症状は5日間くらい続き、腹痛や下痢を伴うこともあり、1週間程度で回復します。治療は対症療法が中心で、タオルや洗面器の共用をしないようにします。

ヘルパンギーナは突然の発熱に続いて、上あごの奥の方に赤い小さな水疱ができ、それが破れると、つばも飲み込めない程の強いのどの痛みを感じます。

3日前後で熱が下がり、1週間くらいで回復します。やはり対症療法が中心で、脱水にならないよう水分補給に気をつけます。

手足口病は手のひら、足のうら、口の中に小さな複数の赤い発疹ができます。痛みやかゆみはあまりなく、口の水疱が破れた時に、しみて痛くなることがあります。特別な治療を必要としないことがほとんどです。

ヘルパンギーナと手足口病はまれに髄膜炎や脳炎を合併することがあるので、頭痛やおう吐、高熱が続く時は医療機関を受診しましょう。